

(国語)

読む力を高める指導法の工夫
～考えを伝え合い、深め合う活動を通して～

大阪市立豊崎小学校 学力向上部

1. 研究主題設定の理由

本校では、大阪市の教育における「基本的な目標」と大阪市教育振興基本計画の2つの「最重要目標」を受け、「豊かな心をもち、仲間と協働して学び合う子どもを育てる」を学校経営の重点とし、「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「すこやかな体力の育成」をめざして日々教育実践に取り組んでいる。

令和元年度～三年度において、「読む力を高める指導法の工夫」と研究主題を設定し国語科を要に教育活動の工夫を図れるよう研究を進めてきた。これは、読むことを通して内容や意図を的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉や文章で伝え合う能力を育成することが大切であるという考えからである。

2. 研究の趣旨

三年間の教育実践を重ねてきたことによって、説明的文章・物語的文章の両教材において「単元を貫く言語活動を位置づけた授業」の研鑽を深めることができた。その成果として「単元を貫く言語活動」の単元を貫く一番大切なものは、児童につけたい言葉の力であり、その力をつけるのにふさわしい言語活動を第Ⅲ次で設定し、その第Ⅲ次の言語活動を実現するために、第Ⅰ次、第Ⅱ次での言語活動を展開するのであるということが明確になった。そして、児童の「読む力」に高まりがみられるほど、よりよい言語活動につながっていくこともより明白となった。

この三年間の研究において、説明的文章・物語的文章それぞれの特性を分析し、両教材共に児童につけたい力の系統性をしっかり考え、焦点化された指導目標の達成に有効な言語活動を取り入れた授業研究を重ねた。そのことにより、説明文は「正確に要旨を読み取り、自分の考えを伝え合うこと」、物語文は「作品が自分自身に語りかけてくるものを、自分の考えをもち伝え合うこと」ができる子どもの育成が重要であることを共通理解することができた。

そこで本年度は過去三年間の研究をさらに深めていけるように、引き続き国語を研究教科とし研究主題は「読む力を高める指導法の工夫～考えを伝え合い、深め合う活動を通して～」と設定した。本校の児童は三年間の研究を通して、子どもたちは読むことや書くことが習慣化し、「書かれているものを正確かつ豊かに読み取ること」や「自分なりの考えをもつこと」などの力を高めてきた。また、国語科の授業において考えの交流をすることにより、自分の考えの変容に気づいたり、「できた」という成就感を味わったりすることができた。しかし、語彙が少なく話し合い活動において意見を伝え合うだけで、深め合う話し合いに至っていないことが課題となっていた。

そこで今年度は、国語科の学習において考えの交流をすることで、友だちの考えを尊重して受け止めるとともに、「伝え合う」ことのよさを実感できるような実践を重ね、自分の大切な思いを広げたり、深めたりするための研究を進めることで、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向かっていくと考える。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 知識・技能の習得

読む力を高め、深い学びを実現するために「読むこと」と「書くこと」につながる知識・技能の習得を目指す

- 語彙を豊かにする指導
- 読みの力の育成
- 音読の工夫
- 話型指導
- ハンドサインの活用
- 学習用語の定着を図る指導
- 「書き方」「書型」の指導

視点② 課題解決型の学習の設定

国語科の学習の流れを課題解決型に設定することで、児童が「今日は〇〇をするんだ」「やってみよう!」と目的意識をもち、学ぶ価値を見い出して学習に臨むという主体的な姿になる。

問題解決型の学習における課題は、「～とはどういうことだろうか」「なぜ～なのだろうか」といった児童の実態や発達段階に応じて、興味・関心がもてるものである。Ⅰ次のつかむ課題把握の場は、学習を進めていく上で、価値のある課題、解決できる課題かを考察して学習計画を立てる。Ⅱ次の広げ・深める課題追及・解決の場は、課題に対する「自分の考え」をもつ場で、「自分の考え」の妥当性を吟味・考察するために友だちの思いや考えと比較したり、関連付けしたりする「対話の場」である。Ⅲ次の生かす自己実現の場は、追及・解決してきた課題をより確かなものや価値のあるものに対することができるような言語活動の場を設定する。

視点③ 対話的な学びを生み出す工夫

「自分の考え」の妥当性を考察したり深めて行ったりする対話的な学びを目指す。児童の実態や話し合う内容を考慮し、どのような形態が効果的・効率的な話し合いになるかを考え、計画する。また、問題解決学習の中で「何のために話し合うのか」という目的意識を明確にもてるように指導する。対話の目的は、自分や友だちのそれぞれの思いや考えを比べたり、取り入れ合ったりしてよりよい意見にすることである。さらに、対話では自分の考えを伝えることも大切だが、友だちの意見を「積極的に聴く」ということが何よりも重要である。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 読む力を高め深い学びを実現するために、各学年において知識・技能の習得に向けての様々な取り組みを行い、「読み」につなげることができた。

(2) 今後の課題

- 児童が話し合う必然性をもてるような発問や課題の設定
- 表現を豊かにする語彙を増やしていく指導方法の研究
- ICT 機器や発表ボードなどによるお互いの考えを深め合うためのさらなる支援の研究